

事務事業評価シート

評価実施年度：平成28年度

上位の施策名称 施策Ⅱ-4-3
子育て支援の充実

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

子ども・子育て支援課長 河原 賢

電話番号

0852-22-6071

事務事業の名称	保育所等運営支援事業
目的	(1) 対象 保育を必要とする児童及びその家庭 (2) 意図 適切な子育て支援が受けられるようにする
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村が、子ども・子育て支援法の規定により支弁する費用に係る県分を負担する。 ・保育所職員の資質及び保育技術向上のため、主に中堅職員を対象とした専門研修を行う。 ・保育士の人材確保のために、養成施設卒業予定者を対象とした就職説明会、潜在保育士等の就職を支援する保育士・保育所センターの設置、保育士修学資金の貸付、保育士等の資格取得の支援等を実施する。 ・保育士の登録を行う。 ・待機児童発生市町村において、途中入所に対応するための余剰保育士を配置することにより待機児童をゼロにする。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名	待機児童ゼロ化事業実施市町村割合	目標値	16.0	50.0	83.0	100.0	%
	式・定義	事業実施市町村/前年10月1日現在待機児童発生市町村(ゼロ化事業実施可能市町村)×100	取組目標値					
			実績値					%
			達成率	-	-	-	-	
2	指標名	保育士人材確保	目標値	206.0	254.0	302.0	350.0	件
	式・定義	保育士・保育所支援センター登録者の就職件数	取組目標値					
			実績値	158.0				%
			達成率	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b)(千円)	3,643,260	3,862,668
うち一般財源(千円)	3,607,065	3,845,812

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した(実施予定、一部実施含む)
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状(客観的事実・データなどに基づいた現状)

■過去の待機児童の状況

4月1日現在…H25年度(14人、3市)、H26年度(3人、2市)、H27年度(46人、2市)、H28年度(37人、3市)

10月1日現在…H25年度(128人、6市)、H26年度(129人、5市)、H27年度(148人、6市)

年度当初(4月1日現在)の待機については、施設整備や定員の増により解消されつつあるが、年度中途の申込みについて100名以上の待機が発生しており、改善されていない。

■H25年度に保育士・保育所支援センターを開設し、求職・求人とのマッチング事業を実施。

過去の就職件数…H25年度(62件)、H26年度(106件)、H27年度(158件)

6. 成果があったこと(改善されたこと)

■年度当初(4月1日)の待機児童については、定員増や施設整備により徐々に解消されつつある。

過去4年間の4月1日現在の待機児童数

H25年度 14人 3市
H26年度 3人 2市
H27年度 46人 2市
H28年度 38人 3市

■保育士・保育所支援センター登録者の就職件数は徐々に増加している。

過去3年間の就職件数

H25年度 62件
H26年度 106件
H27年度 158件

7. まだ残っている課題(現状の何をどのように変更する必要があるのか)

①困っている「状況」

年度中途の入所申込みに対し、保育士の確保ができず待機児童が発生している。

②困っている状況が発生している「原因」

入所申込みの多くが0~2歳児であり、多くの保育士配置が必要であるが、年度中途での保育士確保が困難な状況。

H28年度 4月1日現在の待機児童 38人
(年齢別) 0歳児…5人、1歳児…25人、2歳児…8人

※配置基準 0歳児3人に対し保育士1人 1、2歳児6人に対し保育士1人

③原因を解消するための「課題」

保育士を雇用し、余剰に配置しておくことで受け入れ態勢を整えておく必要がある。ただし、配置基準以上の人員に対しては給付費の支給はない。

登録数を増やし、求職者が希望する労働条件と求人施設が求める保育士ニーズを合わせていく必要がある。

8. 今後の方向性(課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方)

H27年10月に待機児童が発生した6市について、H28年4月以降定員を増員するよう働きかける。

余剰保育士の雇用を進め、途中入所に対応できるよう支援していく。

保育所の人材確保については、保育士・保育所支援センターと連携し、求人・求職ニーズを十分把握しながら支援していく。

・課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価(任意記載)